

デ  
イ  
ー  
プ  
・  
ブ  
レ  
ス

ね  
こ  
よ  
う

舞台上は、小さなテーブルとイスが一台ずつ。座ると客席に向かう形で中央に置いてある。テーブルの上にはグラスとストローが置いてある。

椅子の左側(上手側)にボックスがあり、その中に、ジョッキ。コーヒーカップ。瓶ビール。ワイングラス。皿。フォーク。ナイフ。が入っている。

椅子の右側(下手側)にはハンガーラックがあり、上着が二枚掛かっている。

二枚の上着は、「勝負服(一番いい服)」「よそいき服(二番目にいい服)」である。

「一応外で着る服(三番目にいい服)」を着た戸梶 彩乃が出てくる。

## 第一幕 女友達 ゆみ

ひっさしぶりー。なんかすごい久しぶりだね？ ホント久しぶり。会いたかったよー(と抱き着く仕事)つっても、半年ぶりぐらい？だね？座る座ろ。私も座るから。(笑って椅子に座る)どう？仕事の方、相変わらず忙しいの？・・・うん・・・うん・・・そっかー。大変そうだね。でも由美がそれだけ任されてるって事だよー。高校の時からさ、なんかっーと由美がやってたって言うか、やらされてたって言うか・・・ほら、三年の時の文化祭も実行委員とかやらされてなかったっけ？・・・うん。うん・・・エ？それアタシ？美里じゃなかったっけ？・・・そうだよ。文化祭の打ち上げで告って振られたのはみさと！そうよ、美里よ。み・さ・と。(美里のモノマネ)アタシっー、そんなプライド高くないしー。そんなん知らん。

似てる？美里のモノマネ。似てる？微妙？そう？ハハハハハ。

で、そっかじゃあ仕事も順調なんだね。仕事って、イベントの企画とかするんだよね？・・・あー・・・へー・・・ふーん・・・あーやっぱり・このご時世だと・・・ホント、コロナコロナでどうなっちゃうんだろう。うちの会社もさあ、売り上げ落ちてるよお。ボーナスに影響・・・あるかもネエ・・・ホント、どうなっちゃうんだろうね。日本は。

まあさ、なんだかんだ言っても、あたし達ももう二十九だねえ。なんかあつと言う間じゃない？大学卒業してさ、新人ですって就職して、もう気が付いたら入って七年とか八年とかになっちゃってて、ビーンクリだよな？ついこの前まで会社に入ったばっかでドキドキだったのに、気付けば三十、目前ヨ目前。どうするよコレ？どうするヨ由美さん？全然大人の女になってないよね？こんなんでいいの？とか思わな

い？

(コーヒーを一口飲んで) ホント・・・お互いイイ歳よねえ・・・早かったわあ、二十代。なんかさ、時間が進むのって早く感じなかった？ やっぱり？ そうよね？ そうよね？ 子供の頃って一年長かったじゃない？ 中学、高校、まではそんな感じか・・・それでさ、二十代になるとなにか、4月だなんて思ったら、気が付いたらクリスマスマスだったりして。え？ アタシの夏は？ ひよっとして誰かに取られちゃったの？ 夏泥棒？・・・面白かった？(デフォルメして) 夏泥棒・・・最高？ うん、ありがと。

で？ どのよ最近は？・・・何？ 何って、どのよって言ったらアレじゃあ。ホラ、アタシ達のあいだで・・・そう。思い出した？ アレよアレ。(音を出さずに口の動きでこいばな) プププ・・・やあよねお互いイイ歳して、何恥ずかしがってたんだか。もうやあねえ。で、どうなのよ？ 恋バナ。誰かい人いるの？・・・いるの？ 誰？ どんな人？・・・エ？ 焦んな？ はいはい。それで？・・・うん・・・うん・・・それでそれで？ その取引先の人と・・・ア話合ったんだ。それでそれで？・・・いい人だなんて思ったの？ はいはい。はい質問です。その人って、年は？・・・オ、年上？ じゃあ三こ上？ いいじゃんいいじゃん。で？・・・ふん・・・あー・・・誘われて・・・デート？ いやそうじゃないって、それデートだから・・・そう・・・

で・・・うん・・・食事して・・・キャー！ イヤー！ 車中で？ ちよっと聞いてて恥ずかしくなっちゃった。(パタパタと顔をあおぐ) そんな・・・ああ・・・じゃあ・・・(大きなため息) 良かったねえ由美いー。なんかさ、ホント良かったなって思うよ。ホラ、前に付き合ってた人、なんて言っちゃった？・・・ああそうそう。安川さん。あの人がちよっとネ。あの後もうしばらく男はこりこり。って言ってたじゃない？ だから心配してたんだヨ。言わなかったけどさ・・・

・・・うん・・・(フツと笑う) そうそう。泣きながら電話してきてさ、もうアタシ死んでやるーとか言っちゃって。アタシもうびいっくりしたもん。マジやだちよと待ってよ由美とか慌てちゃってさ・・・ああ、でも良かった。良かったねえ由美。エ？ アタシ？・・・いや、聞いてばっかでズルいって、アタシは、別に・・・ねえ。うん？・・・

そう？ 幸せそう？ そんな事・・・アル？ ない？ うん・・・そんなもったいぶってるってわけじゃないのよ。まあ・・・ちよっと言いにくいんだけど・・・そういう話し・・・あるっちゃある。エ？ やっぱりって、なんで？・・・ちよっとと幸せそうな雰囲気だった？

やだもーう。そうか・・・付き合ってる人、いるにはいるんだけどね。なんて言うかその・・・ちよっとと訳ありでさ。ちよっととて言うか、普通に訳あり。うん・・・おおいに訳あり？(ちよっとしんみりして) 実はさ・・・相手の人がね・・・奥さんいるの・・・(由美を見て) そ。不倫。って事になっちゃうかなあ。うん？・・・年はね、5個上の人。会社のさ、先輩っていうか上司っていうか・・・アタシが新

人が入った時からいろいろ教えてもらった人なんだけど、その頃には向こうは結婚してばっかって感じの時でさ、全然そんなアレじゃなかったんだけど……こうなっちゃったのは、本当最近なんだよねえ。仕事とかさ、元カレ……そうそう。時雄。トキオって名前の癖に遅刻ばっかするヤツ。時を守らないけどトキオって、全然トキオじゃないのね。(笑)アイツとなんかうまくいかなくなって、別れようかとか悩んでいた時、ちょうど仕事の方でもいろいろ悩んで。アタシの後輩の女の子が会社でちょっと大きな失敗しちゃって辞めますとか言い出して、いろいろ話しか聞いてあげてたけど、結局辞めちゃったのよ。それがちょっと私的にはショックで。プライベートでもトキオと別れ話で滅茶滅茶な中で辛くてさ。その人、何か話しやすかったから、悩みを聞いてもらって……うちに……そうなっちゃった。エ?……トキオと付き合ってる時期とかぶってない?(考える)そ、う、ね……ちよつとかぶった……じゃあ浮気でしよって、ヤダだってトキオとはほぼ別れたような状態だったんだから。(ポーズして)セーフ。セーフよ。ギリセーフ。そんでき……まあ……そういう関係になっちゃって、今に至る。おしまい……びっくりした?びっくり……するか。そうだよ……まあね、普通のカップルじゃないから、逢う場所とかも考えなきゃいけないし、一日中一緒にいるみたいな事はできないんだけどね。でもさ、時々、休みの日とかでも、午後から会えたりする事もあるんだ……子供?その人?いるって。今三歳……くらい?娘さんだったかな……その人はどうしたいって言うてるか?……彼がね、今、家では奥さんとはほとんど会話もしてないって言うの。まだ子供が小さいから、早いうちに決着できたらなと思ってるって。決着って、別れるって事でしょう?(嬉しそうに)そうしたら、また改めて付き合っほいって私に申し込むから、またスタートしてくれるかい?……エ?……そんなの常套句?……結婚してる男はそれぐらい簡単に嘘つくって?ちよつと、ぜんぜんそういうのと違うから。もうさ、本当に何年も奥さんとレスなんだって……なんのレスって、だからあれよあれ。分かるでしょアレ。(小声で)夜の。そ。そうなんだって。だからあ、私とこうなったのは僕の運命なんだって。そうよね、私もそう思うの。二人がこうなるって、運命だったのよ。ちよつと恥ずいけど……エ?だから初めて会ったのは私が会社に入った頃だから、出会ってからは……7年……それが運命かって?いやだから、7年寝かしといた運命だってあるでしょ?……何で笑うの?寝かしとくって、ワインじゃないんだから?まあワインじゃないけどさ、こういう、身近にいた人が運命の人だったってのもアリじゃないの?(コーヒーを飲む)……ううん……まあそれはまだだね。家は……マンションを買ってるみたい。ローンで。だから、いろいろな段取りを乗り越えて、それから……私と……結婚……とか?まあその可能性も無きにしもあらずだから。エ?……浮かれてる?そんなこと無いよ。まあまだ世間的には隠れての恋愛だからさ……そりゃあ……好きよ。嫌いならそういう関係にならないもん……そりゃさ、君が一番だよ。とかは言われるよ。だから……惚れてるんじゃないの……私に。(テレと嬉しさでちよつと噴き出す)……

エ？寒い？この店？そう？なんで今さらそんな事言うの？もうここ入ってからだわぶね？・・・アタシの話し聞いてるうちにどんどん寒くなった？やだ、風邪？由美にそう言われると、何かアタシも寒くなってきた（体をさする）・・・え？  
ちよつとやあだ何で持ってるの？いつも持ってるの？そんなの？あまりにタイムリーでびっくりだわ。そんなものいつもカバンの中に常備しておく？・・・あそうなの。まあいいや。（手を出して）じゃあちようだい。ホツカイロ。

F・O

暗闇の中、ハンガーラックに設置された小型ライトを彩乃が点ける。その明かりで、今着ている「一応外で来ている服」を脱いで「よそ行き服」に着替える。テーブルの上のグラスとストローをボックスに入れて、中からジョッキを出してテーブルに置く。

全ての動きは観客に観せる為の動きである。

全てが終わったら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

## 第二幕 先輩 村田さん

(ジョッキを持って座っている)じゃあ、おつかれさまでーす(と乾杯して飲む)村田さんと飲みに来たのって久しぶりじゃないですかあ？  
いつぶりでしたっけ？・・・はい・・・でもあれって飲みに行っただってなるんですか？女二人でファミレスでビール空けてって・・・そうですよねえ。飲みですよね。本当、私、去年、村田さんがあっちの部署に急に異動になっちゃったじゃないですか。辛かったですヨ。優しくしてくれた先輩が急にいなくなっちゃうんですから。村田さんはどうですか？カワイイ先輩がいなくなって寂しかったですか？・・・(とぼけて)ハイすみませーん。でもホントびつくりしました。急にラインが入ってきて、「久しぶりに二人で飲まない？」て着たから・・・嬉しかったですよー。そんな、怖いだなんて思ってたんですけど。そりゃ入ったばっかの若いコには村田さんってちよつと、厳しいっ思われてるみたいですけど、アタシは、アタシはですよ、村田さんって厳しい事言うけど、なんかおか、お姉さんみたいな温かさがあるよなあとか思ってますよ。エ？・・・そんな事無いですよー。お母さんって言い間違えそうになっちゃって、村田さんまだそんな年じゃないじゃないですかあー。四十・・・三でしたよね？

アタシと(指を折って数えて)15しか変わらないじゃないですか？それじゃ私、高校生の時に産まれた子供ですかあー？はい？・・・あ、来月の誕生日で四十三だから、今はまだ四十二、でしたか。すいません。じゃ、中学生のお母さんになっちゃうじゃないですか？やだそんな(と言ってみたがあまり雰囲気良くならず笑いを引つ込めて)・・・(店員に)すみません。(ジョッキを指して)生一つください。村田さんお替りどうしますか？あ、ハイ。じゃあ、スクリーンドライバー一つ。

(気を取り直すように)仕事の方、どうですか？あの部署って・・・えー・・・ハイ・・・あ、じゃあ・・・(頷いて)ああ・・・そうなんですかあ。やっぱりあその部署ってキツイですね。ホラ、課長からしてアレですよ、あその課長になっちゃってから、どんだんあ・・・頭の方がちよつと・・・そうですね？どんだんああなってますよね？男の人のあれってやっぱストレスなんですかね？

あのまま行っちゃうと(髪をかき上げておでこを出して表現)・・・ですよね？ なっちゃいますよね？ あーそれは奥さん可哀そうだなあ。アタシ、無理だわハゲは。エ？ あ、言っちゃった。澤田課長ごめんなさい。(拝むように) すいません。内緒にしといてください。

あ、(手を挙げて) 生、アタシです(彩乃がジョッキをバン！とテーブルに置いて店員が持ってきたのを表現する)(ジョッキを一口飲んで) こっちですか？ うーん、まあ村田さんがいた頃と特に変わらさず・・・新人がちょっと入ってききましたけど・・・辞めちゃって・・・

あ、知ってましたか？・・・そうなんですよ。四つ葉商事の田野井さん。たんぼの田に、野原の野に、井戸の井って書いて田野井さんです。その人の名前を聞き間違えちゃって、先方に電話かけた時に「わたくしサカグチカンパニーの小宮山ですけど、タヌキ様いらっしゃいますか？」って言っちゃって、運悪く電話に出たのがその田野井さんだったんですって。それでその田野井さんも大人ですから「すみません。わが社には田野井という者ならおりますが、何か間違えではないでしょうか？」って落ち着いた対応したら、小宮山さん「いえ、タヌキさんで間違いないと思います。あのぼんぼこたぬきのタヌキさんです」って。それで田野井さんかなり怒っちゃって・・・そうですよ。普通怒りますよね。小宮山さん、すぐに気づいて謝ったんだけどもうおさまらないっていうか・・・富山部長が四つ葉商事に直接お詫びに行ってくつて騒ぎになって。彼女もかなり落ち込んだんで私もいろいろ心配して、話聞いてあげたりしていたんですけどねえ・・・そうですね。正直、ちよつとシヨックでした。私が先輩としてもつとフォローしておけば、とか思いますよ。でも・・・(思い出し笑いして) 会社への電話で「ぼんぼこたぬきのタヌキさん」ってどうなんですか？ どんだけメルヘンなんだよって感じですよ？・・・え？ タヌキさんいらっしゃらなかつたら、キツネさんはいらっしゃいますか？ 言えよよかつたのになつて、ちよつとやめてくださいヨ(大笑いする) じゃあ四つ葉商事との取引はお金の代わりにどんぐり使つて、社長はリスさんですか？ 専務はキツネさん？ それで森の中で大きな卵焼き焼いて、狸さんも狐さんもリスさんもみんな食べたりして。どつかで聞いた事ある話ですか？ ハハハハ・・・

(店員が来る) え？ シーザーサラダ？ うち頼んでませんよ。うちが頼んだのはアボガドサラダ。(店員去る。彩乃、少し小首を傾げる) それで、今日はどうしたんです？ 急に飲もうなんて。なんか、ありましたか？・・・エー、でも村田さんなんか言いたそうな顔してますよー、あたしの気のせいですか？・・・そういうわけじゃないけど？ はい・・・付き合ってる人・・・ですか？ まあ、今いますけど、それがなにか・・・(聞いてるうちに表情が曇っていく)・・・そんな、村田さんの知ってる人だったら真つ先に村田さんに報告しますよー・・・(だんだん雲行きがあやしくなつてきて、うなづきながら暗い顔でジョッキを一口飲む)・・・あー・・・そうなんですか・・・あー・・・はい・・・あー、はい・・・あの店、来てたんですね。「テンドラーコーヒー」・・・じゃあ・・・見てたんですね。アタシとあの人が会つたの・・・すいません。あの・・・内密にしておいてもらえませんか？・・・はい・・・付き合ってるの、あの人は・・・

ええ・・・はい・・・知ってます娘さんがいるってのも・・・そうですよね。でも、奥さんとはもうすぐ別れるって言うんです・・・なんですか？急に黙って・・・なんで謝るんですか？はい・・・はい・・・いやだってそんな、嘘とかじゃありませんよ。私が一番心安らく存在だって言ってるんですよ？(ジョッキをグイグイあおる)プハー。すみませーん！(店員に)おかわりお願いします。エ？・・・あの人の・・・女癖の悪いって噂？・・・派遣の女の子に手を？噂だけど・・・はい・・・そうですか・・・私が心配？アタシ？ふふふ。(丁寧)村田さん。ご心配ありがとうございます。でもわたくし戸梶は自分の事は自分でやりますので、大丈夫です！(ジョッキをテーブルに強く置いて)うわびつくりした。(ジョッキを一口飲んで)アタシなんかより村田さんはどうなんですか？酔ったから聞いちゃいますけど、なんかいい話とかないんですか？・・・はい？・・・はい？・・・結婚相談所？・・・それで？・・・会って？・・・どうなりました？・・・(聞きながらテンションが下がる)・・・あー・・・それで・・・す・・・か・・・でもそれは、村田さんと合わない人だったんですよ、きつと。エー？村田さんって、どっちかって言うと、ちよつと無口で、読書が好きなのとかが合いそうじゃないですか？・・・あー・・・そういう人とはこの前会った？・・・全く会話が弾まなかった？・・・(思わず)あーやっぱり。イヤごめんなさい。自分で言っちゃっばりっておかしいですよ？

え？・・・頼んだもの来てない？何ですか？・・・「いかわさび？」ちよ、ちよつと待ってください。普通わさびものって言ったら、「たこわさび」ですよ？・・・この店しかないメニュー？そうですか。独自すぎますけど(店員に)すみませーん。たこわさ、じゃなくて、「いこわさび」来てないんですけど。はい・・・エ？今「いこわさび」って言ってました？そんな言ってませんよ。(ジョッキを飲む)・・・あ、話し戻るんですか？・・・はあ・・・はい・・・(あいづちしながら段々テンションが落ちる)はい・・・そうですね・・・家庭を壊すとか、そういうつもりは全然無いですよ・・・はあ・・・まあ確かにそうですよね・・・ただ、どうなんですか？夫婦の話も無いような冷たい家庭。そんな所が自分の帰る家なんです。例えばですけど、外は雨で、家の中まで冷たい雨が降ってたら、人って温かい暖炉を求めますよね？彼にとつてたまたまその暖炉が私だけだったけど・・・美化しすぎ？でもですよ、奥さんがそんなにひどい態度とってるってなんでんですか？もう愛してないってことですよ？私は・・・彼の事好きです愛しています。だから彼の為に出来る事してあげたいです。それでも、私って間違ってますか？村田さん・・・分かってくれました？すみません、なんか熱くなっちゃいました。(ジョッキを飲む)なんかここ、暑いですよ？(顔をあおぐ)・・・これって、知ってるの、村田さんだけですか？・・・すみません、くれぐれも内密でお願いします(頭を下げる)彼が奥さんと別れたら、今度は正々堂々と付き合いますので・・・そんな、溜息つかないでくださいよ。エ？・・・はい。(店員に)すみませーん。あ、ウイスキーシングルモルトのロックひとつ。村田さんがウイスキー飲むのなんて

アタシと飲んでで初めてじゃないですか？・・・はあ・・・なんか飲みたい気分になったんですか？・・・(ジョッキを一口飲んで、沈んだ  
気を無理に盛り上げるように)やっぱ、村田さんと飲むと楽しいです。先輩だけどあんまり気を使わないって感じで。本当、ぶっちゃけ言い  
ますけど、私女性の先輩の中で村田さんが一番付き合いやすいっていうか、話しやすい人で・・・あー・・・遅いですね。すみませーん。  
(店員に)すみません、ここ、さっき頼んだものが全然来ないんですけど・・・はい・・・はい・・・そうです。たこわさび。

F・O

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「よそ行き服」を脱いでハンガーにかけて「勝負服」を着る。  
テーブル上のジョッキをボックスに入れて、コーヒーカップをテーブルに出す。  
全てが終わったなら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

### 第三幕 課長 辻沼

(座っておりコーヒーを一口飲む。少し落ち着いた雰囲気である)・・・あ。(店に入ってきた相手に手を振る)お疲れサマーバケ。辻沼課長。フフフ。・・・その挨拶?そりゃあ、二人で会う時はね、アタシの中の決まりなの。結構時間かかったね。大丈夫だった?・・・ああ、山田君?あの人がいつもそうよね。「大丈夫です」っていつも言ってるけど、ギリギリになって「大変です」って言うてるよね。まあそういうフォローもお疲れ様。またいつものでいいの?・・・うん。

(店員に)すみませーん。アメリカンのラージ一つ(店員が離れたのを確認して)・・・あのね、この前村田さんに誘われて飲みに行ったんだけど・・・それでそこでさ、村田さんから言われたんだ・・・私達の事を見たんだって。この店で・・・そんなキョロキョロしないですよ。今日は店に入る前に誰か知ってる人いないか確認したから大丈夫だけど。あのさ、もう、この店で待ち合わせるのやめた方がいいと思うの。他の店にした方が・・・うん分かってる。この店だったら絶対会社の人来ないって思ってたのは聞いたけどさ。(コーヒーが来る)はい、すみませーん(目で店員が離れたのを確認する)・・・あの店員の女の子、いつもいるわね・・・ほら、今コーヒー持ってきた、ポニーテールの可愛い子。・・・ううん、なんでもない。

・・・それでさ、実際問題、村田さんには、私達の事見られちゃってるんだから、やっぱり待ち合わせ場所変えないと。エ?・・・ポイントカード?ポイントがたまりそう?100ポイントで、「テンドラスペースシャルブレンドコーヒー」が1杯無料?・・・そうなんだ。じゃあ後は一人で来るしかないんじゃない?・・・こんな会社から遠い店まで、コーヒーだけ飲みに来ない?そりゃそうよね。ん?・・・ああ、村田さんの事ね・・・他の人には内緒にはしてくるって言ってた。だから、バレないとは思う・・・(にこやかに)そんな、大丈夫ですよ。落ち着いてくださいって。辻沼課長・・・ここではその言い方やめてくれって?じゃあ・・・(含み笑みで)ひろちゃん。(照れ笑いする)あのさ、私、時々仕事中でも、「辻沼課長すみません」って口で言いながら、心の中で「ごめんね、ひろちゃん」って言って一人で楽しんでんの・・・僕も?・・・時々心の中で「あやちん」って呼んでる?いやーだあもう・・・私達ってさ、お互いいい年してるのに、

バカップルみたいな事やってるよね？(自分を指して)二十九歳。(相手を指して)三十四歳。いい歳なんですけど、どうしようもないよね……11  
何？……楽しそう？そりゃさ、久しぶりだから。こうやって二人つきりで会えるのって……うん。こないだね。でもそれはしよう  
がないよ。うちの事があったんでしょ？……うん……うん……分かってる……いや、別に、そういう意味で言ったんじゃない  
よ。こういうアレで、そっちのおうちの事がいろいろあるってのは、分かっているよアタシ……だからそんな謝んなくていいって。  
大丈夫だから。うん、大丈夫。

そう言えばさ、昔、うちの会社で、不倫がバレた二人っていたじゃん。アタシがまだ入って二、三年目くらいだったかなあ……あれって確  
か……そう！神宮寺さん！なんか、神社みたいな名字の人だったなあって覚えてるの。ちょっと暗い感じであんまり喋らない先輩。相手  
って、神谷部長？太ってた。だよな？そうだよなえ！神宮寺に神谷。二人とも名字に神って字が入ってたから、神がかってあんな関係になっ  
ちゃったんじゃないとか言われてたよね。あれで神谷部長って、奥さんに離婚されて、うちの会社も辞めたよね。神宮寺さんも辞めちゃって。  
でもあれってさ、あの二人のやり方がまずかったよね？休みの日まで「休日出勤になった」って言って二人で会って、神谷部長の奥さんが  
興信所使って調べたらあつと言う間にバレちゃって。(小声で)あの奥さんさ、会社まで来て、神宮寺さんの帰る所捕まえて、詰め寄ったって  
知ってる？……すごかったんだよお、「あんたみたいな女がうちの旦那に手え出したから、メチャクチャになったんだあ」って怒鳴っち  
ゃって。警備の人とか会社にいた人とかで輪になっちゃって。あんな事されちゃったら、もう会社にいられないよねえ。あれの次の日には、  
神宮寺さん、もう退職願出したみたいだから……マ、うちらはさ、あんなへたな事やってないもんね？奥さんとか、バレてないんでし  
よ？……アレ？奥さんとは口聞いてないんじゃないかなかったっけ？……ああ、そう。昨日久しぶりに話したのか。そうよね……  
(店員を目で追って)あのさ、ちよつと気になっただけさ、あのポニーテールのコ、私達がこの店に来た時にいつもいるじゃない？だか  
ら、ひよつとしたら、あのコが村田さんに情報を流したとか……そんなスパイみたいな事あるわけない？村田さんはCIAかKGBなの  
かって？……そんな笑わなくていいでしょ。でもね、あのコの名札って見た事ある？……あそう。じゃあ教えてあげる。あのコね、  
「村田」って名前だったわよ。だからさ、あのコは、村田さんの姪っ子さんとかで、自分のおばさんに私たちが会っているのを密告したとか……  
たまたまだろう？村田なんてたくさんいる？そう？……(コーヒーを一口飲んで)そう言えばさ、会社の木下君、最近元気なかったでしょ？  
彼さ、彼女にフラれちゃったんだって。うん……そう。これマジ。昨日、本人から聞いたの。「戸梶さんにしか言わないんで、誰にも言  
わないで内緒にしといてくださいよ」って言われたんだけど、言っちゃった。ア、でも、これって課長として、部下の情報把握って事になる？  
エー、ならないんじゃないのお……冗談よ冗談。フフフ。

・・・総務の望月さんね、もうじき結婚するんで会社辞めるんだって。寿退社。あの人ならいい奥さんになるんじゃない。エ？・・・  
アタシ？アタシは・・・結婚かぁ。結婚したいって願望はあんまり無いかないかぁ・・・うん。でもアタシの周りの友達、まだ独身のコの方が多  
いよ。そうそう。あんまり結婚したいと思わない女同士でツルんでるのかもしれないね・・・  
まあ、結婚ってのは、やっぱご縁だしね(チラと相手を見る)エ？・・・その目つき怖い？怖かった？フッフ・・・でもさ、やっぱり、別れた  
後でそっちの家に帰っちゃうのは、切ないかな(またチラと相手を見る)・・・怖い？そんなこと無いってー。・・・あ、そんな時間？じゃあ、  
そろそろ出る？ またいつもの所ね・・・分かった。じゃあ、部屋で待っててね。部屋の番号、ラインして。いつもみたいに。うん。じゃあ、  
向こうで・・・ア！ねえ、あのポニーテールのコ、絶対こっち見てたよ。・・・うん、チラ見してた。やっぱあのコあやしい。・・・考えす  
ぎ？そうかなあ、女の勘ってのかな？なーんか怪しいんだよねえ、あのポニーテール・・・ポニテッコ。

F・O

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「勝負服」を脱いでハンガーにかけて「よそ行き服」を着る。テーブルの上のコーヒーカップをボックスに入れて、ワイングラスと皿とナイフとフォークをテーブルに出す。全てが終わったなら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

#### 第四幕 先輩 敷島

(座ってワインを一口飲む) 美味しい。なんかすみません、こんな高そうなお店連れて来てもらっちゃって。大丈夫なんですか？・・・はい、ごちそう様です、敷島さん。でもびっくりしましたよお、会社でちよつとちよつとって呼ぶから、何かと思っちゃって、小さい声で「話したい事があるから今度食事でも行かないか」って言われて。敷島さんとうちよつと二人っきりで食事するなんて初めてですもんねえ。ゴチになりまーす。先輩・・・エー？いいじゃないですかあ、可愛い後輩の為なら。

(店員が来て、オードブルの説明をする) はい・・・はい・・・あー・・・なるほど・・・どうも) につこり微笑む。店員が離れたのを見て何言ってるか分かりました？私、エビ、だけ分かりました。あと、湯がいてマリネでバジルがどうたらこうたら言っちゃってましたけど、さっぱり・・・あ、敷島さんも？やっぱ分かりませんよね。

仕事の方とかどうなんですか？順調ですか？・・・ああ、さすが、出来る男、ですよね？・・・えー、茶化してませんよお。仕事が出来て、優しくて、本当スゴイじゃないですかあ。(小声で) 結構、敷島さんの事良く思ってる女性社員って、多いんですよ。ホントですってー。嘘じゃないですよ。・・・あれ？今付き合ってる人とか、いましたっけ？・・・ホントですか？ちよつと信じられないなあー。マ、敷島さんに問題あるとしたら、あとは顔だけ？いえいえ冗談ですって。フフフ。

(ぐるりと見渡して) このお店、いい雰囲気ですよ。ここの前通りかかる時、いつも見て気になってたんですよ。でも、その分、高いんだろうなーとか思ってた・・・あ、敷島さんも来てみたかったですか？じゃあ、いいんですか、アタシみたいな後輩と来ちゃって。もつと、狙ってる人と来た方が良かったんじゃないですか？エへ・・・え？例えば？・・・私を狙って？・・・そうですか。じゃあ一応女として見てくださっているんですね。冗談でも嬉しいですよありがとうございます。

(ワインを一口飲んで) でもホントいいお店。(周りを見て) 何か好きだなー、アタシ・・・周り、カップル多いですね。・・・ああ、私達もそう言えばカップルでしたね。(ワインを一口飲む) このワイン、赤だけどすごく飲みやすいですね・・・エ？お酒ですか？私あんまり飲めな

いんですよ。ビールなんて、ジョッキ一杯飲んだだけでもうフラフラになっちゃうくらいなんです。だから、あんまり飲んじゃってご迷惑おかけしても悪いので……そーんな、優しいですね。ありがとうございます。

それで……あの……話って、今日はどんな？……エー……はい……ハイ……そうですね。あの頃、敷島さんにはいろいろと助けてもらいましたね。それ、すごーく感謝しています私。いつか、恩返しできたらなって思ってます……はあ。

……私の……良からぬ噂が……私と……(表情が曇る)辻沼課長が……あー……はい……噂がある。と……(感情のこもらない)あー、そうですね……すみません。ちなみにお聞きしたいんですけど、それって誰からの情報なんでしょうか？……あー……あーそうか……あーハイ……ええ……本当なのか？と……もし、ですよ。もし、本当だったとしたら、敷島さん、どうしますか？……私の為に……やめた方がいいと……言いたい。と。あー、ハイハイ。そうなん……です……ね。

ご心配、ありがとうございます。じゃあ、私も、正直に言わせてもらっていいですか？私、敷島さんだから、ここまで心開いて話すんですよ。いいですね？……(少し改まって)私は……辻沼課長とは……お付き合いして……ません！……そうです。全然です。デマもいとこですよ。なあんで私が辻沼課長とそんなことにならないといけないんです？そりゃあ上司ですから、二人で話したり打ち合わせしたりとかはよくありますけど、そんな関係なんて(笑)……あ、すみません。エーそつかそういう目で見られているんですね……(ワインを一口飲む)ちよつとシヨックだなあ。私、ちゃんと付き合ってる人いるのに……いますよそりゃあ……大学で……同じサークルだった人です。私の前に付き合ってた人との話してましたっけ？……してませんか。私、前の彼との事ですごい揉めたんですよ。その時に彼にいろいろ相談に乗ってもらって、そこからなんとなく……同い年で、爽やかで、すごーい優しい人なんです。だから、辻沼課長だなんて……(噴き出す)すみません、ちよつと意外すぎて……あー、なんか、人の噂って面白いですね……あーそつかそつか。じゃあ、話ってその事だったんですね……

(料理が運ばれてくる)あ、ハイすみません……(皿が置かれる)……はい……はい……はー……それはおいしそう(料理の説明にうなづいて会釈する)どうも(店員が離れるのを目で追う)……子羊の肉をなんだかいりやっただけですね。うわ、おいしそー(肉をナイフで切る)……(それを口に運ぶ)……おいしい。すごーいおいしいです。なんて言うか……生まれて初めてマクドナルド食べた時みたいな……エ？例えがちよつと？そうですか……でも、心配してもらって嬉しいですよ……ええ……そんなに心配しれもらつてありがとうございます。ええ……後輩としてでなく……一人の女性として心配して……いる……と。あーあーあー(何かを納得する)じゃあ、今日、この高そうなお店に来たって言うのも……あーあーあー(なんだか納得する)……そうですか……

私に対してそういう気持ちを持っていただけるのはすごい嬉しいです。敷島さんみたいなイイ人に。でも私、付き合ってる人いますので。……15  
はあ……。仮の話として……。私が……。辻沼課長とそういう関係だとして聞いてほしい？……。そういう私を救いたいと思ってる？  
はあ……。

(料理が来る)ア、すみません。……。はい……。はい……。ほー……。なるほど……。どうも)と会釈する。店員が離れるのを待ってこ  
れ……。タツノオトシゴの粉末がかかっているって言ってましたよね？こうやって、おろしたんですかね？タツノオトシゴ。大根みたいに？……  
あ、ミキサー？なるほど。どこを持っておろしているか分かりませんが、タツオト。え？……。だから、タツノオトシゴの事ですよ。  
略してタツオト。……。そうですね、初めて聞きますよね。私も初めて言いました。ハハハ……。はい……。とにかく……。私の  
事が心配……。ですか……。あ、敷島さんも食べてみてください。おいしいですよ、この、タツノオトシゴおろしたヤツ……。どうで  
すか？おいしくないですか？この料理。名前なんですって？(虚空を見て記憶を引き出す)ボン・ソワル……。なんとか。言われた  
けど思い出せないわ。まあいいか。おいしいですよ？この、タツオロシ。

F・O

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「よそ行き服」を脱いでハンガーにかけて「一応外で着る服」を着る。テーブルの上のワイングラスと皿とフォークとナイフをボックスに入れて、グラスとストローをテーブルに出す。全てが終わったら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

第五幕 元カレ トキオ

(ちよつと機嫌の悪い様子で)でき、何なの？話つて。……こっちはあんたと話すことなんか何にも無いって言ったよな？ラインでも電話でも。それが、あんたがどうしても話したいって言うからこうやって来たんだけど……だいたいき、自分から話があるって言って、それで二〇分遅れるなんてありえないから。あんたっていつもそうなんだよ。自分が言った事一つ守れないで。……なあにがトキオなんだか……謝るなら遅刻して来なきやいいんじゃないの？……もうさ、あんたの遅刻して済まなそうな顔、見飽きたから。こうでしょ？(申し訳なさそうな顔をする)どうせ、こうでしょ？(また申し訳なさそうな顔をする)……でき、何度も言うみたいだけど、何の話？もうとつと話しただけして帰りたいの。せつかくの休みなんだから。……ええ、お陰様で元気です。誰かさんみたいに、迷惑とかストレスかける人がいなくなったからね……あ、嫌味に聞こえた？そんなつもり全然無かったんだけど。じゃあ、ゴメンねゴメンねごめんさーさい。……(コーヒーを一口飲んで気を取り直すように)それで話しは？……うん……はい……(聞いてるうちに嫌そうな表情になっていく)ああ……あのさ、もうさ、まわりくどい。グチグチグチグチ、迷うとか迷わないとか、言うべきとかそうじゃないとか、そんなのこっちからしたらどーでもいいんだけど。なに？なんなの？……ちよつと耳に入ってきた？……アタシが今付き合っている人について？……(ちよつと思案顔になる)それで？……うん……うん……うん……うん……(トキオの言葉が終わり、大きなため息を一つつく)それだから、アタシの事が心配になった。と？……ああそうなの？……どうなの？……って言われましても、ネ。でもさ、もう関係ないんじゃないの？あんたとは。例えば、アタシが奥さんいる人と付き合ってたとかでも。うん？……あんな別れ方になってしまったから？……寂しくてそういう事を選んだ？俺も責任を感じてる？……(ダメだコイツというため息を一つつく)ちよつと言わせてもらいますけど、アタシが今付き合ってる人と、あんたはまーったく、関係ありません！あんたとの事の影響なんてまーったくありませんでした！だからどうかご心配なさらずにいてください。エーエー、大丈夫ですので！……はい……はい……もし傷ついたり疲れているなら？……俺が助けにならないか？(深いため息を一つ)

なんなのあんた達男ってのは。もう結婚してる男性と恋愛してる女は、寂しくて傷ついてるから不倫に走るんですとかって教科書にでも書いてあるの？「不倫してる女性は落ちやすいです」とかでも書いてあるの？……この前も、会社の男の先輩が食事に誘うから何かと思ったから……まあいいわ。ご心配ありがとう。でも大丈夫ですの。

(コーヒを一口飲む) エ？……どうぞどうぞ、いつまでもお待ちください。ただ、それは無いわ。ごめん。それだけは、無いわ。それでさ、アンタ、ハイ。(手を出す)……なに？つて、アレよアレ。二万円。にーまーんーえーん。忘れたわけじゃないでしょ？なんか、ゴジラの人形？フィギュア？なんだか分からないけど、それが欲しいけどお金が足りないから貸してくれないかって言った。まだ返してなかったよネ？だから、今、返して……今無い？じゃああのフィギュア返して！売るから……限定品だ？あのね、アンタがさ、そのあのフィギュアがどうしても欲しいけどお金が足りないから泣きついてきたんだよね？絶対返すからって言いきつて。なんでアタシがゴジラだかゴリラだかよくわかんないもののお金貸さなきゃならないのよ……え？そこはゴリラじゃなくて「キングコング」って言ってほしい？どーでもいいわ！そんなの！(手を出して)……じゃあいくらあるの？……八千円？女呼び出して、あんたそれしか持ってないの？カハー(と大きなため息)じゃあそれでいいから返して。八千円でいいから……当たり前でしょう。全部ヨ。それでも半分以上こつちが泣いてるんだから……ここの払い？じゃあ、千円あればいいでしょ？七千円でいいわ……早く！(受け取り、数える)

はい、確かに……何よ？改まって……え？……オレは君のホームだから？……なにかあったら、いつでも帰ってきていい……トキオ……(感動したような目でウルウルと見つめる)……なあってなるわけじゃないでしょう！なにカッコつけて言ってるの？アンタがホームだったらね、アタシは「ホームレス」だわ！せいぜいね、今度はゴジラとかキングギドラが好きな女でも見つけたらいいんじゃないの？……ん？……どっちかと言うとキングギドラよりもアンギラス？じゃあ、そのアンギラス好きなコでも見つけなさいよ！なんなのアンギラスって？……アンギラス？

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「一応外で着る服」を脱いでハンガーにかけて「よそ行き服」を着る。  
テーブルの上のコーヒークップをボックスに入れて、ジョッキをテーブルに出す。  
全てが終わったなら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

第六幕 同期 木全

(ジョッキを持って)はい、おつかれー。(一口飲む)ハ、おいしい。なんかさ、木全さんと飲みに来たなんて久しぶりだよな？元氣そうね？・・・良かった。相変わらず、その髪きれいよね。ストレートで。ウチらの入社同期だと、あと誰だったっけ？・・・ああ、田口君？彼は転職になったんだよな？どこだっけ？なんか・・・地図の・・・上の方・・・宮城か！そうか宮城支社だったよな。元氣でやってるのかなあ、寺島君。(思い出し笑いして)彼さ、新人研修のとき、一時間遅刻してきたよな。それで研修担当に「もう社会人なのだから、一つの寝坊で大きな損失になる事もあるんですよ」って怒られてたよな？フフフ・・・どう？経理って・・・そうだよなえ、計算ばかりって言うのも大変だよな・・・あ、そうか。やっぱり月末は大変なんだ・・・いやいやそんな事ないって。ウチら営業はただ外に出る仕事で、経理はどっちかって言うとき、バックアップ的な仕事じゃない？だからやっぱりバックアップがしっかりしないと外でアレコレ出来ないって言うかさ・・・いえいえ。本当に、そんな活躍なんてしてないヨお。でもマ、お互い、中堅って言われるくらいの年数になったわよね。

・・・この店？よく来るって言うか、たまに来るの。飲み放題が充実しててさ、日本酒の種類とかも結構あってね・・・そんなに飲みに行かなくていいよ。・・・そんな事ないよ。木全さんは？経理の人とかで飲みに行くとかあるの？・・・あ、全然ないんだ。アレごめん。酔ったから聞くわけじゃないんだけど、木全さんって、特定の人っていたっけ？なんて言うか、付き合っている人？なんか、前に聞いた記憶だと、いたって気がするけど・・・別れたの？いつ？・・・もう二年前？あ、そうなんだ。結構前だったんだね・・・(ジョッキを一口飲む)

・・・アタシ？そういう人？まあ、いるけど・・・うーん、最近かなあ・・・なにに？どうしたの？いや、急に黙って考え込んでしまったからさ、どうしたのかなかと思って・・・うん？なにに？(スマホを出して手に取る)・・・これって、アタシのインスタじゃない？そうだよな。木全さん、フォローしてくれてるんだものね。それで、これがどうしたの？・・・先先週の日曜日のインスタ？

(スマホを動かして)・・・あー、これ？鎌倉の有名なお店に行っただの。すっごくおいしくて、それがどうかした？・・・その写真？・・・料理と、アタシよね？お店の人に撮ってもらったの。そのお店の店員さんが結構イケメンで、写真お願いしたら「ハイじゃ撮りますね〜」って言うてくれて、またその笑顔がかわいくって。うん？この写真・・・隣に写っている手？(スマホをよく見る)・・・この手って、あー、彼の手なんだけど。ちよと照れ屋さんで、写りたくないって言うから、アタシだけ撮ってもらったの・・・その手の・・・指輪と時計？・・・

(すつと目線を外して店員を探して手を挙げて)すみませーん。はい。日本酒の八海山一つ。冷やで。・・・あー、この手か。そうかー、これは気付かなかったなあ・・・(日本酒グラスをボックスから出す)あ、はいすみませーん。(クイツと飲み干す)まあ・・・まあ・・・木全さんだから信用して言うけど、アタシの付き合ってる人は、奥さんがいるの。えー、そういう関係。不倫っていう。ちよつと、世間様に堂々と云えないようなアレなだけで、まあお恥ずかしながら・・・うん、大丈夫。ありがと。

ゴメンね、久しぶりに同期で飲もうって時にこんな話になっちゃって。・・・ううんいいの、木全さんは悪くないんだから。私のせいでちよつと変な空気になっちゃって・・・どうしたの？トイレ？・・・違うの？

アタシのインスタをフォローしてる会社の人？そりゃ何人かいるよ。・・・この手が？・・・辻沼課長じゃなかった？・・・うわさに？そ、そんな事あるわけじゃないでしょう？なんでこの手が？そんな、おかしくない？なんでアタシがよりもよつて辻沼課長と？・・・エ？・・・ズームしてみるの？写真の手を？・・・(自分のスマホで操作してみる)この腕時計？・・・レアものなの？あんまりしている人がいない・・・あ、ホントだ。コアラのマークがある。・・・コレを見た女子社員の誰かが？・・・この時計・・・辻沼課長のしている時計と似ているって？・・・ぐ、偶然じゃないの？たまたま同じの持つてる人だつてさ・・・課長に手の写真を撮らせてもらって・・・それとこの手のスクショの比較画像を作って流した？・・・もう、噂くらいのレベルじゃないくらいに広まっている？・・・あーそう・・・(すつと目線を外して店員を探して手を挙げて)すみませーん、はい。越乃寒梅を冷やで。・・・そうなの・・・それで？・・・木全さんはどう思ってるの？その噂って本当だと思ってるの？(日本酒が来る)あ、すみませーん。(クイツと飲む)・・・うん・・・うん・・・そうよね、同期だよな・・・だから・・・心配してくれた・・・と・・・そう・・・(ニッコリして)ありがとネ少しゆつくりと飲み干す)プハー。そうか。そうなんだ・・・うん。・・・うん。ありがと。大丈夫だから。うん。・・・そうね・・・でも、本当にアタシは大丈夫。別に・・・そんなに・・・ねえ？たいした事じゃないから。・・・うん。・・・そうよね。・・・木全さん、優しいよね。そんなに自分の事みたいに心配してくれて・・・うん。うん。・・・そうよね・・・でも大丈夫よ。大丈

夫、ホント。．．．平気よ。．．．だいじよ、(カツとして大声で)大丈夫だって言ってるでしょ!．．．あ、ゴメンね。大きな声出して。20  
そんなつもりじゃなかったんだけど。ちよつと酔っっちゃったみたい。．．．ホントごめん。でもさ、大丈夫だから。．．．うん。．．．  
うん。．．．うん。大丈夫。

F・O

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「よそ行き服」を脱いでハンガーにかけて、「一応外に着ていく服」を着る。テーブルの上の日本酒グラスをボックスに入れて、コーヒーグラスをテーブルに出す。全てが終わったなら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

## 第七幕 親友 亜子

ヨ。久しぶり……。この前ゴメンね。電話で……。うん、ちよつとなんか、いろいろいっぱいになっちゃってさ。(無理して明るく)電話してんに一人が泣きだしちゃったら、片方はたまんないよね……。うん……。ありがとう。あとさ、ダラダラ愚痴っちゃってゴメンね。なんか聞いてほしくってさ、電話かけちゃった……。うん……。(おどけて)さっすが親友、亜子さん。エへへ。うん……。うん……。まあね、こうなっちゃった原因は私にあるからさ……。ああ、うん……。そう……。そうなの……。同じ部署の人？みんなそんな感じかなあ……。うん……。うん……。(あいづちをうっているうちになんだかおかしくなってきた)うんうん……。ちよ、ちよつと待つてよ。私の事でそんなに怒って興奮しないでよ。わかったわかった。だからちよつと落ち着いてよ。どうどうどう……。あーもう、そんなにプリプリ怒ってたら、ちっこくて可愛いの台無しだよ……。あ、ちっこいだけ余計？はいはい分かった。亜子ちゃん。

(コーヒーを一口飲んで)ホント、そういう所変わんないよね。人の事なのに自分の事みたいに感情移入してさ。あれじゃん。昔に私のカレガ浮気してたって時も、亜子がカレを問い詰めて、ほつぺたをバチーンって平手打ちして、慌てて私が止めたじゃない？……。うん……。そうだったね……。うん……。ああそうだった……。そうね……。(またおかしくなってきた)だから、そんな私の昔のカレの事思い出して怒らないでって。落ち着いて落ち着いて。アイツはもう今関係ないんだから。

ねえ、変な事聞いていい？……。あのさ、亜子は今度の事聞いて、どう思った？やっぱり、不倫する女なんてちよつと、とか思った？ううん、いいの。正直に言うて。うん……。うん……。うん……。ああ……。そっか……。そうなんだ……。ううん、いいの。聞いたのは私なんだから。ありがとね。でもさすが、そこまで正直に言うてくれるのも、亜子だけだよ……。そうかあ……。ううん、そんな、傷ついてなんかないよ。まあ、やっぱそうだよ。ちよつと嫌な感じはする、か……。それはそうだと思うよ。もしだけど例えば、亜子が結婚とかして、カッコイイ旦那さんが出来たとして、その旦那さんが不倫してたとしたら、許せないものね……。うん……

うん・・・分かってるよ。(コーヒーを一口飲んで)亜子はさ、優しいよね。ううん、優しいよ。・・・まあそりゃ人によっては、すぐ怒る22  
おっかないおばさんだとか思われてるかもしれないけど、私にとっては亜子は優しいよ。エ？私もおばさん？なに言ってるの。亜子の方がお  
ばさん化してるの早いからね・・・例えば？・・・トイレ近くなっただけ。昔の話するの多くなっただけ。あのさ、最近の若いコへの文  
句が増えてきたのって、完っ全に嫌われるおじさん化してるから。(亜子の真似で)「私らの若い頃と比べると最近のコたちってさあ・・・」  
ってよく言ってるじゃん。そうだよぜーったい。ハハハハハ。

うん。ありがとう・・・ちょっと元気でした、かな？・・・うん・・・うん・・・うん・・・そうだね。懐かしいね・・・あーあったあった・・・  
うん・・・ああ・・・(何だかおかしくなってきた)ちよ、ちょっと待ってよ。中学の時に私がアイス盗ったの思い出してそんなに怒らない  
だよ。エ？あー、あれってガリガリ君だった・・・いやだからちよっと一旦落ち着こうよ。そんな大事？・・・まあそりゃ夏だよ。ね。  
めっちゃ暑い日だったんだ・・・うん・・・うん・・・あ、そうだったっけ？あーそりゃひどいわ私。全然忘れてたよ。それでもう一  
度コンビニで買ってきたのに・・・また盗って逃げたんだ。悪いヤツだなあ、私。チョコモナカジャンボどろぼう？ちよっと、長いよそれ。  
もっとスバツと言おうよ。例えば？うーん・・・(大声で)この、チョコモナどろ！

F・O

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「一応外に着ていく服」を脱いでハンガーにかけて、「勝負服」を着る。テーブルの上のコーヒীগラスをボックスに入れて、コーヒークップをテーブルに出す。全てが終わったら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

第八幕 元同僚 神宮寺

(立ったまま丁寧にお辞儀をする)すみません。急にお呼びだしてしまつて。(座る)……ご無沙汰してしました。神宮寺さん。……そうですよ。まだ神宮寺さんがうちの会社にいらつしやつた時は、そんな面と向かつてちゃんとお話ししたこともなかつたですよ。その後、お元気でしたか?……ああ、そうですか。……そうなんですか。今はその会社の派遣社員つて形で……連絡ですか?結構大変でした。村田さんつて覚えてますか?あの方にお願ひして、神宮寺さんと同期だつた中澤さんと会わせてもらつて、その中澤さんに、どうしても話がついてお願ひして、やつと神宮寺さんのフェースブックのアカウントがまだ生きてるつて分かつて……そうですね。会社の中に、神宮寺さんと親しい方つてのがあまりいらつしやらなかつたので。でも、親しい人が多ければいいつてもんじゃないと私思います。今は特に……あ、フォローになつてなかつたですね。すみません。

(コーヒーを一口飲む)あ、話ですか。……私の事は聞いてますか。……そうですか。中澤さんから聞いて知つてましたか。それで……会社だけじゃなくて、向こうの奥さんにもバレちゃつたみたいなんです。まあ、奥さんの方はうすうす感じていたみたいですけど(コーヒーを一口飲む)今、私、周りから犯罪者みたいな目で見られてるんです。私が女子社員の輪に近寄ると、みんなパツとどこか行つちやいますし、あつちこつちで私を見ながらひそひそ話してたり……それで……こんな今の私の気持ちを分かるのつて、神宮寺さんしかいないんじゃないのかなあなんて思つて。失礼ですけど、神宮寺さんと神谷部長との事がみんなに知れた時つて、今の私と同じような状況だつたじゃないですか?……はい……(少し落ち込みながら)はい……ああ、そうですね。あの時、私もひそひそ話をする側の人間でしたものね。……そんな!バカになんかしてませんよ私。お二人の事を……。……はい……。……そうですか。耳に入つていた、と。じゃあ、今さらですが、正直に言います。はい、ちよつとバカにしてみました。ごめんなさい。(頭を下げる。下げ続けたまま)なんで……。……なんで……。……こんなに言われなさいいけないんです?(顔を上げて)そんなに悪いことしました?私。神宮寺さんはどう思いますか?そりゃ、奥さんがいて、家庭のある人を好きになつちやいましたよ。でも、それは、向こうの奥さんに言われるなら

まだしも、全然関係のない他人に言われる筋合いなんかないんじゃないかって思うんですよ！……そのへん、どう思いますか？神宮寺  
さんは……はい……はい……悪いことをしたとは思わない？ですよ！……でも？……いい事をしたとも思っ  
ていない？……相手の……奥さんや子供を傷つけたのは事実……

はい？今になって考えると？……彼の方は？……愛つてよりも、性欲が強かったんだと思う。そんなことはないんじゃない  
そうですか……でも？……私の方も？……寂しさを埋めるのに彼と付き合っていたと思う？そうですか……ただちょっと  
すみません。そういう、性欲とか寂しさとかかっていうものも、愛しあうつてもものの中に含まれているんじゃないかって私は思うんですよ。だ  
から、そんな事で神谷部長と神宮寺さんの事が愛じゃないなんて決めつけてしまうのは……そうですね。神宮寺さんは聞かれたか  
ら、自分の気持ちを言っただけで……ちょっと熱くなっちゃいました。すみません。

エ？……はい……私は、会社には……いられないかなあって思ってます……彼の方は、分かりません。電話とかラインとかメー  
ルしましたけど、向こうからは何にも……会社にですか？彼は、来てません。体調不良って事で、もう一週間くらい来てないです。

まあ……正直ちょっとホツとします。周りにバレた状況で、「辻沼課長」なんて普通に呼べませんから……  
これから、ですか？……どうしよう、かな……ホント、どうしましょう……(にっこり微笑んで)結構キツイですね、これ。  
あの時の神宮寺さんの気持ち、今になってやっと分かりました。こういうのって、外側でワイワイギャーギャー好き勝手言うてる立場だと、  
分からないものですね……ア、コーヒー、おかわり頼みます？……コーヒーじゃなくて、レモンティーにするんですか？分  
かりました。(店員に)すみません(店員近寄る)……レモンティーと……私も、レモンティー。

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「勝負服」を脱いでハンガーにかけて、「よそ行き服」を着る。テーブルの上のコーヒーカップをボックスに入れて、グラスとストローをテーブルに出す。全てが終わったら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

第九幕 元先輩 村田さん

ええ。元気です。．．．．．なんとか．．．．．イエ。あんな急な辞め方しちゃって、みんなに迷惑かけたのは私ですし．．．．．村田さんの方には、ご迷惑は？．．．．．無かったですか。じゃあ良かった。．．．．．（頭を下げて）なんかすみません。ご心配おかけしてしまって．．．．．まあ、しょうがないですよ。身から出たサビって言うか．．．．．自業自得って言うか．．．．．いえいえ、そんな、村田さんが責任感じなくても．．．．．あの時って、私と飲みに行った時ですか？いえでもあの時やめとけって言われたのに聞かなかったのは私ですから。

（コーヒーを一口飲む）はい．．．．．はい．．．．．いえ、まだそんな次の仕事は決まってるんです。まだそこまでは．．．．．村田さんの．．．．．知り合いが．．．．．会社を立ち上げ？．．．．．一緒にやってけるような人を？．．．．．どうかって？私ですか？．．．．．はあ．．．．．（頭を下げて）ありがとうございます。なんか．．．．．嬉しいです。って言うか、ありがとうございます。あんな形で逃げるみたいに辞めた私に、そんな話を聞いて。でも、すみません。ちよつと、考えさせてください。．．．．．いえ、そういう事じゃないんです。ただ．．．．．すみません。ちよつと、お時間頂けますか？いろいろ．．．．．考えたいんです。自分の事とか。

．．．．．あの人とですか？連絡．．．．．取れてません。だから、今どんな状況なのかは．．．．．ああ．．．．．そうですか。まだ会社には来ていないんですか．．．．．（フツと笑って）なあんか、犯罪者の二人みたいですよ？．．．．．ええ．．．．．世間の目が厳しいってのは、分かっています。でもそんな、たった一回の間違いだけでそんなに．．．．．そりゃあ、不倫が良くない事だつて言うのは私だつて分かっちゃいましたよ。分かっちゃいましたけど．．．．．こんなこと言うのと軽蔑されるかもしれないんですけど．．．．．やめられなかった。いけないって分かっちゃいました。彼にこれだけ寂しい思いさせてる奥さんが悪い」とか「奥さんよりも先に彼が私に出会ってたら違ってたんだ」とか考えて、自分を正当化したりして．．．．．（うなだれてしまう）でも．．．．．そんなの．．．．．全部、言い訳ですよ。すみません。．．．．．そうですね。村田さんに謝ってもしようがないですよ．．．．．

（顔を上げて）そうだ。私、村田さんに一個だけ聞きたい事があったんですけど．．．．．いいですか？ 突然でアレなんですけど、村田さん、

親戚とかに若くてかわいい女の子っていますか？こう、こうして、髪をポニーテールにしている二十歳くらいの……いますか？村田さん……姪っ子さん？お兄さんの子供？大学生なんですか。じゃあそのコ、ひよつとして、バイトとかしてませんか？「テンダラーコーヒー」って店で。で、どうですか？……じゃあやっぱり……そうですか……え、じゃあ村田さんが、店で私と辻沼課長を見かけたってというのは、ひよつとして嘘？……友達と……スマホで写真を撮った。姪っ子さんが……その後ろに……写っていた？私と課長……（大きなため息をつく）そうですか……いえ、そんな……そんなのどうでもいい嘘じゃないですか。イエ、ずつと引っかかっていたんです。私、あの店で彼と待ち合わせしていた時、知り合いに合わないように警戒していたのに、なんで村田さんがいたのに気付かなかったのかなあ？……フフフ……いえ、謎が解きました。ありがとうございます。（頭を下げる）……そうか、姪っ子かあ……名前は？姪っ子さんの下の名前って……メイ？「村田メイ」ですか？姪っ子のメイちゃん？姪っ子メイちゃん？なんか、すつごい語呂がいいですね……ア、メイちゃんって、何か聞いた事あると思ったら、「となりのトトロ」だ。そうだ。あの映画に出てくる女の子の兄弟がサツキとメイ。ですよ？そっかー……（歌う）ト、トロ。ト、ト、ロ。あ、すいません。思わず歌っちゃいました。そうなんです。じゃあ、私の勘も結構当たってたんだ……あ、こっちの事です……

（何か少しさっぱりと納得したような表情である。コーヒーを一口飲んで、もう一度スッキリしたような顔を見せる）しかし……メイちゃんですか……え？……いや、言いませんよ。何ですか？言いたそう？そんな事ないですよ。そりゃ、トトロのメイちゃんって言ったら、あのセリフだから、言いたいですよ。でも、言いませんって。はい……

（我慢できなくなったかのように、となりのトトロのお婆ちゃんのお真似で）メイちゃあくん。あ、言っちゃいました。

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「よそ行き服」を脱いでハンガーにかけて、「勝負服」を着る。  
テーブル上のグラスとストローをボックスに入れて、コーヒークップをテーブルに出す。  
全てが終わったら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

第十幕 奥さん 織江

(緊張した面持ちで俯いて座っている。誰かが前で声を掛けたので慌てて立ちあがる)あの・・・課長の・・・奥様・・・ですか?(頭を下げ  
る)初めまして。私、戸梶綾乃。と言います。

はい・・・すみません。失礼します。(椅子に座る。緊張した様子)・・・あ、はい・・・いえ、そんな・・・全然そんな・・・  
(沈黙を勇気を出して破るかのように少し微笑んで)ちょっとびっくりはしましたけど。課長とのラインに急に「私、妻です」なんてメッセー  
ジが着たので・・・

(また沈黙になる。気まずい空気。織江をどう見て良いのか分からずに視線が一定しない。何かソワソワと落ち着かない)・・・  
はい?・・・あー・・・そうですか・・・一回実際に会って見てみたかったですか、私を・・・(この沈黙の間が  
困ったような仕草のため息をついたり視線を泳がせたりしていたが、やがて右側にあるガラスから見える路地の風景に目を止め  
る)・・・(不意に言われはい?・・・謝る?私が・・・ですか?(フーとため息を一つついて、また右側に目をやる)・・・  
(何かを言われゆっくり前を向く)はい?・・・あ、はい。・・・そうですか・・・人の・・・家庭を・・・壊した。(また右を向  
いて集中する)・・・(次第に、何かを決心したような表情になっていく。それは、この場ではもう何も言い訳もしな  
いし謝罪もしない。という決意である)・・・(一度、自分の左手を開いて手の甲を見ているが、また右側に目をやる)・・・  
(突然、前に座っていた織江が席を立ち、店を出て行ってしまふ。彩乃はちょっと驚いて、それを目で追う)行っちゃった・・・(左手を  
じっと見てため息をついて)指輪、かあ。

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。今着ている「勝負服」を脱いでハンガーにかけて、「一応外で着る服」を着る。テーブルの上のコーヒークップをボックスに入れて、瓶ビールとグラスをテーブルに出す。全てが終わったら、彩乃は大きく深呼吸する。そして、小型ライトを消して暗転する。

## 第十一幕 父 達哉

(グラスを手にとって、少し大人しく)はい、かんばしい。(ちよつと飲む)・・・うん。大丈夫。ごはんはちゃんと食べてるよ。・・・うん。とりあえずサ、ちよつとのんびりしようかなあと思つて。マア、一応貯金もそれなりにあるし、慌てて仕事探さなくてもいいかなあつて。お父さんこそ大丈夫？会社を定年退職したのつて、去年だったよね？ホラ、よく言うじゃない。定年退職して、やる事が無くなつて家の中をウロウロするだけの男の人が多いつて。・・・あ、そうなの？料理？お父さん、料理なんてできたつて？・・・勉強中？お母さんに教わつてんの？・・・そうね。教えてくれるわけじゃないか。じゃあ、だれに教わつてんの？・・・YouTube？そうなの？へーすごいじゃない。それで、その料理、美味しく出来たの？・・・そりやお母さんは喜ぶわよ。35年、台所に立つたことのない亭主が作つてくれたんだから。卵焼き一個作つても感激ものヨ。トラ子は元気？・・・ア、そつか。トラ子ももうお婆さんだものネ。ご飯は食べてる？・・・歯が弱つて・・・もう年だからね・・・あ、じゃあ時々夜泣くんだ。にやーにやー・・・それで今はお母さんと一緒に寝てるんだ。でも元気なら良かった。お婆ちゃんは元気？・・・ア、そつか。真美子ももうお婆さんだものネ。ご飯は食べてる？・・・歯が弱つて・・・もう年だからね・・・あ、じゃあ時々夜泣くんだ。めそめそ・・・それで今はお父さんと一緒に寝てるんだ。でも元気なら良かった。何？なんで笑つてんの？・・・そんなことないでしょ。トラ子の感想と、お婆ちゃんの感想とがほとんどかぶつていたなんて。(グラスを一口飲んで周りを見て)この店つてさ、ほら、お父さん覚えてる？アタシが小学校4年くらいの時かな？お父さんとお母さんがスツゴイけんかして、お母さんが家出しちゃったから夕飯が無いつてなつて、お父さんがアタシとつよし連れて来たよね？お父さんに「好きなもの頼め」つて言われて、アタシ、ピザと唐揚げとフライドポテト頼んで、幸せだなあこんなならまたお父さんとお母さんけんかしてもイイか

なあとか思ったの覚えてるよ。ネエネエ！あの時ってさ、なんであんなにけんかしたの？．．．ええり、もう二十年も前の事なんだから時効だよ時効。いいじゃん。言っちゃいなヨ。なんでそんな言いにくそうにしてんの？．．．へー．．．お父さんが？．．．職場の女の人の相談に乗ってて．．．それをお母さんが疑って．．．お父さんがその人と不倫してるんじゃないか、と言いついたんだ．．．あ、全くの誤解だったのね。なら良かった。アタシの今の立場で、なら良かったって言うのも変だけどね。アハハハ(ちよつと気まずくなる。グラスを一口飲む)

(お父さんのグラスにお酌して)．．．全部、聞いてるんでしょう？．．．だから。アタシがあ会社なんで辞めたか．．．そうだよね。聞いているよね。なんか．．．ゴメンね。不倫なんかしてる悪い娘で．．．悪くてもいい？イヤイヤ、ダメでしょう？．．．どんな悪い事したって？．．．オレは味方？イヤイヤイヤ、ダメだって。じゃあさ、例えば、アタシが、銀行強盗したとしても味方になんの？．．．人生で一回．．．銀行強盗を匿って見たかった？ダメじゃん親ばか！

(ちよつと、どこか嬉しそうな表情になる)つよしは？元気にしてるって？．．．そっかー。お母さんが電話したんだ．．．アイツも、遠い滋賀県で頑張ってる働いているんだね。アタシも嬉しいよ、姉として。今度の正月は帰って来るのかなあ．．．そうだね。久しぶりに、家族五人が集まって年越せたらいいネ。

(グラスを一口飲む)エ？．．．時間が出来たから？．．．英語の勉強してるの？．．．問題集買って？なんで急に？．．．英語を喋れると、カッコイイ？そんな動機でイイの？普通さ、もつと、「仕事に役立つ為」とかじゃないの？．．．動機がいいかげんだと、いつでもやめられるからイイんだ？そんなもんなの。じゃあさ、ちよつとこれ聞いて。(一つ咳払いをする)I was shout a great many world. I repeat reading this book. You pay this dinner cash. You loving your daughter and your wife. You drinking a beer. I don, t have any money. I behind cloth eyes and cloth hoots. Sir TOKAJI is sikty five years old. なんて言ったんでしょか？．．．あなたは．．．妻と娘を愛している．．．あなたは．．．ここの勘定を払うべき？後は？．．．戸梶は65歳です。か。そこまで？ふーん．．．まだそこまでしか勉強してないんだ．．．しょうがないなあ。じゃあ、正解を言いまーす。正解は．．．全部、適当にそれっぽい英語でしたあー！アタシが英語喋れるわけないでしょ？．．．そうでしょ。何かちゃんと言うつぽかったでしょ。アハハハ．．．あ、(お父さんのグラスにお酌する)はいどうぞ。何？．．．深呼吸って英語でなんて言うか？深呼吸ってあれでしょう？ラジオ体操の最後にやる、(手をつけて深呼吸をやる)これでしょ？これを英語で？さあ．．．うーん．．．何かさ、引っ掛け問題っぽいんだよネ。ホラ、よくあるじゃん。英語にすると「なんでそういう綴りになるの？」ってヤツ。なににの間に、で between とか、なににするやいなやで as

soon as みたいな……うーん……deprohisa とか?……違う?なんかそれっぽく言ってみただけど。じゃあ、正解は?……p. 30  
(お父さんがコップを出すので) ハイハイ注ぎますよ。だから教えて……。deep breath & deep が……。深いで、breath が……。呼吸。ってそのまんまじゃーん。なんだー。考えて損した。んで、その深呼吸がどうしたの?……deep breath ってなんか……。かっこいいだろ?そんだけ?それ言いたいだけだったの?もーう、やだー。(グラスを一口飲む)……。ん?……。人生……。いろんな事がある……。でも?……。思いつき深呼吸して、新しい気持ちになれば、また前に進めるもんだ?……。深呼吸って字?深い呼吸って書くよね。「しん」は、「新しい」って書いて「しん」でもいいんじゃないか……。深い呼吸じゃなくて、また新たな呼吸をするって意味で?……。そっか……。なんか……。(しんみりと)お父さん……。うまいんだかうまくないんだか微妙な話しをありがとう。ハハハ。よく聞いてみたら、一文字替えたただだったからさ。でも……。そっか……。ハハハハハハ(笑って目じりを少し抑える。それから、虚空を見上げて少し何かを考える)あ、注いでくれるの?ありがたい。(両手でグラスを差し出す)ハイ、ハイ……。ありがとね、お父さん……。だから、お酌の事だけじゃなくてさ……。いろいろ、ね。エ?英語で?じゃあ……。(カッコつけて)「サンクス。マイ・ダイ」ん?……。何で笑うの?……。間違ってる?……。マイ……。ダッド?なにダッドって?

暗闇の中、小型ライトを彩乃が点ける。最後、洋服は着替えない。

テーブルの上のビール瓶とグラスをボックスに入れて、コーヒークップをテーブルに出す。

全てが終わったら、彩乃は大きく深呼吸する。その後で、声を出して気合いを入れる。そして、小型ライトを消して暗転する。

## 第十二幕 恋人 辻沼

(店内に入ってきた相手を見て、軽く手を挙げて) どうも・・・お疲れサマーバケ。久しぶりだね。元気だった?・・・いろいろ大変だった? そうだね。辻沼課長。あ、もう課長じゃないんだっけ?・・・うん・・・うん・・・うん・・・いいよ。奥さんに呼び出されたことは・・・ああ・・・聞いた。徳島支店に行くんだってね。・・・ああ・・・うん。それも聞いた。離婚するんだってね。うーん・・・こんな時、ゴメンねって言った方がいい?・・・そうだよ、ちよつと違うよね。

(コーヒールを一口飲む) 私? そうだね、今はまだ働いてない。ちよつどいい機会だから、少しのんびりしてから、またゆつくりと仕事探せばいいかなあとか思って・・・まあ、まだ貯金もあるから、大丈夫(にっこり笑う) そっちはどうなの? 環境が変わって、身体とか大丈夫? ホラ、ちよつと枕が違うだけでも寝れないような所あるじゃない?・・・そっか。まあ、やってくしかないものね。・・・そうだよ。養育費を払わないと。あ、慰謝料も・・・そりゃあるよね? 私に? きたよ。奥さんの弁護士から。貯金がかなり減っちゃったけど・・・仕方ないよね。

あのさ、私、今回の事で、いろいろ学んだんだ・・・なにつて・・・そうね。私がかんなことやったら、周りの人たちってさ、まるで自分が正義の味方みたい、好き勝手なこと言うんだなあって。略奪愛だの色仕掛けでオトしただの平和な家庭を壊しただのみんな言いたい放題。自分の頭ん中の考えや常識に照らし合わせて、たぶん寂しかったんだろうとか仕事で行き詰まっていたんだろうとか精神的に疲れていたんだらうとか。そして、なんで不倫なんかしちゃったのか、頼んでもいないのに勝手に分析して優越した顔してる。確かに私は不倫しましたよ。エーしました。でもさ、そんなにアンタ達は偉いの? アンタ達が私の何を知ってるの? ふざけんじゃないわよ!!!・・・奥さんと娘さんには本当に申し訳ないと思ってるわ。もし自分が奥さんの立場だったら、アタシに対して何したか分からない。ひよつとしたら、殺したい

ほど憎んだかもしれない。殺さないまでも絶対に殴ってたわ。それもグーで、思いつきりね。……ま、結局、誰のせいかって言うとき、全部自分が悪いんだけどさ。(うつむく)……え?……徳島に?……一緒に?それって……p.32  
ひよっとして……プロポーズ?

(しばし呆然とする。そしてまたうつむき、じっとする。そして、次第に肩を震わせている。一瞬、泣きだしたのかと思ったが違う。笑っている。おかしくおかしくてたまらないという感じで「フフフフ」と笑っている) ああ、ごめんなさい。何でもないので。なんでもないんだけど、フフフ。本当にごめんね。こういう関係だった私達が、ついにあなたは奥さんと別れました。だから正々堂々と付き合えますってなりました。てのは分かってるんだ。理屈では分かってるん……だけどね……

(真正面を見据えて) ねえ、あなたにとつて私ってなに?……うんうん……すぐには答えられないわよね。そっか。(息を一つつく) あの子、あなた、奥さんから離婚されて、会社からは徳島支社に左遷させられて、周りの状況がそうなっちゃったから、私にプロポーズしたのよね? 結局、アタシの事が欲しい! とか絶対アタシと一緒にになりたい! とか自分で思ってたわけじゃない……(首を振り) うん……(首を振り) うん……口では何回だって言えるわよね。愛してるって言葉は。あなた、私を手に入れようと、何も賭けてないじゃない。ノリスクよ。愛する奥さんと娘がいたけど、大丈夫だから私と付き合った。今度は奥さんと娘に捨てられたから、私と結婚しよう。なんんにも、私を手に入れる為にしてないじゃない。ちよつとゴメン。ゴメン。ごめん。バカにしすぎなんじゃない?

(コーヒーを一口飲む) そうよ。アタシも一緒。愛する家庭を持つ人と愛し合って付き合うっていう矛盾。その事について真剣に一人で突き詰めて考えたりもせずに、そのままダラダラと付き合っていた。やっぱり、寂しかったから。でもそういうのってうまくいかないよね。マア、世間の中には、不倫していて、そのまま結婚しましたって平和に続いている家もあるのかもしれない。でも、ここでは、アタシ達は、うまくいかない。無理だわ。もう無理。あーもう無理。あなたは奥さんがいなくなった代わりとしてアタシはちよつどいいのかもしれないけど、私の気持ちはもう切れたの……そう。あなたの事は好きだった。二時間くらいしか一緒にいれなくても会いに行ったりした。あなたが辛くなるから、どんなに寂しい夜でも電話なんかかかかなかった……なんで気持ちが切れたのか? それは……分からない。全部一から十まで説明できないとダメなの? 例えば、あなたの口が臭いからとか足の爪が汚いだとかそういう理由を聞けば満足なの?……じゃあはっきり言わせてもらおうとね、あなたとアタシの二人での幸せな生活ってのが、想像できないの。例えばあなたと結婚する。子供が出来る。カワイイ娘が産まれる。そうした時に、またあなたの目の前にアタシみたいな女の人が見えたら?……その時アナタはどうするの?……(フツと笑って) そりゃあ、絶対裏切らないって言うわよね……(自分を納得させるように) そうよね……でも、もういいの。なんだか……

もう・・・よくなったんだ。アタシには。

徳島か・・・じゃあ、たぶん、もう会えないかな。(頭を下げて) いろいろとお世話になりました。ありがとうございます。辻沼課長。(ニツッ、コリ微笑んで) バイバイ。元気だね。ひろ君。(ため息を一つつく。そして、右にあるショーウィンドウに目を向けて、しばらく眺めている)・・・外の通り・・・いろんな人が歩いて通っていくね。男とか、女とか、いろんな人が・・・あの一人一人が、家族の事とか恋愛の事とか仕事の事とかいっぱい背負って、そんなにたくさん背負っているなんて誰にも見せないで、何でもない顔して、歩いている。

今歩いてったメガネかけた女の人は、お腹の子供をおろした後かもしれない。さっき通った太ったおじさんは、家で子供が引きこもっているのかもしれない。あのお婆さんは、旦那さんが余命半年って言われたばかりなのかもしれない。・・・人間って・・・残酷だよ。悲しくて泣きたくてたまらないかもしれない人とすれ違っても、そんな事に気づかないで歩いている。・・・アタシも・・・残酷な事したのかな・・・

(決心し、立ち上がって) じゃあ、そろそろ行くね。あ、(財布から千円札を出して) これ、コーヒー代。じゃあね。

(どこからか、鬼束ちひろの「Tiger in my love」が流れてくる。)

(少し逃げるように歩き出し、店を出て、少し道を歩く。雑踏の中、ふとした時に立ち止まり、すれ違う人に肩が当たる。その人たちを右に左にと見送り、ゆっくりと空を見上げる。太陽が眩しい。彩乃を照らす日差しに、思わず手をかざして目をしかめる。そして、すーっと息を吸って、「ウオーーーーー」と叫ぶ。太陽に向かって。何かを振り払うかのように、叫ぶ。叫び終わると、通り過ぎる人々の異様なものを見るかのような目線を気にする。そして、大きく手を開き胸を開いて深呼吸をする。一度。二度。三度。深呼吸が終わると、なんだかすつきりしたような晴れやかな表情になっている。)

さあ・・・行くか。アタシ。

(「Tiger in my love」が流れる中、前を向いた彩乃の立ち姿の残像を残すかのように明かりがF・Oしていく)

(了)